

小春日 和

こ は る び よ り

2016年 第33号

発 行

愛媛県立中央病院

松山市春日町83番地

TEL:089-947-1111

<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>



入院サポートセンターがオープンしました

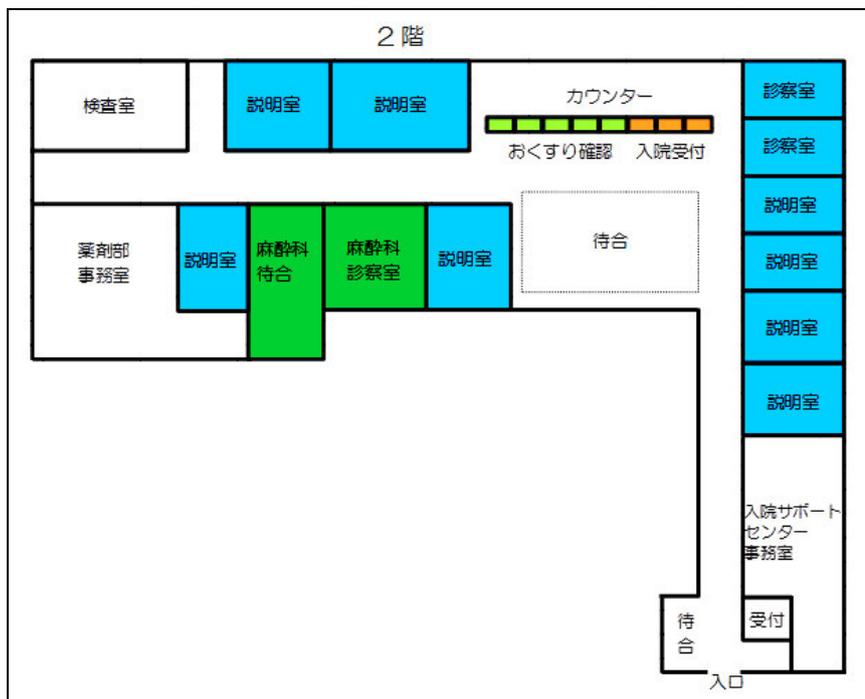
愛媛県立中央病院

副院長・入院サポートセンター長 高石 和

当院は高度医療を提供する急性期病院として、年間約20000名の入院患者さんを受け入れています。患者さんの中には入院した後で、外来ではわからなかった併存疾患や身体状況の問題などが見付き、入院期間が長くなったり、治療方針が急遽変更になることがありました。また、患者さんの多くは、大きな不安を抱えたまま入院してこられます。そこで、これまで以上に「より安全な診療・より安心して受けられる診療」の提供を目的として、当院では2014年1月から手術を受ける患者さんを対象とした「術前サポートセンター」の運用を開始しました。ここでは、入院前に行うべき業務を標準化し、多職種が連携することによって、入院前に全身状態のチェックと患者さんへの説明などを行い、外来から入院、手術に円滑に移行できることを目的としています。

具体的には、各診療科医師から依頼のあった患者さんに対して、専任の担当看護師が中心となって、これまでの病歴や全身状態の十分な把握に努めるとともに、必要な検査依頼や、問題があった場合には専門診療科への診察依頼などを行っています。患者さんとご家族に入院や手術に関する説明を時間をかけて行うとともに、担当看護師と相談でき不安の表出が可能な場所と時間も提供することで安心を届けるよう努めています。また薬剤師による持参薬確認、歯科医師による口腔ケア、管理栄養士による栄養指導、理学療法士によるリハビリ指導、麻酔科医や手術部看護師などと連携した手術前のチェックや麻酔説明も行き、より安全な医療の提供を心がけています。

このような多職種による患者さんへの介入を入院前から行うことによって、入院後はスムーズに原疾患の治療



に移行できるとともに、患者さんの早期回復にも貢献することがわかってきました。そのため2016年10月からは対象を手術以外の入院患者さんにも広げるため、移転拡充し機能を強化した「入院サポートセンター」に生まれ変わりました。現在は、治療の標準化が進んでいる一部疾患のみを対象としていますが、今後段階的に拡大し、すべての入院患者さんを対象とする予定です。また、入院サポートセンター内には、患者さんとの面談に使用する説明室や診察室を10室設けたほか、麻酔科術前外来、薬剤部のおくすり確認カウンター、入院受付カウンターなどを併設しました。そのため入院や手術に



必要な説明や手続きが一か所で受けられることになり、患者さんにご家族の利便性も向上しました。

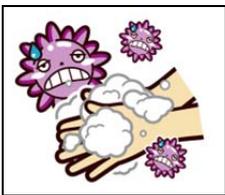
これからも入院サポートセンタースタッフ一同は、患者さんに安全・安心な入院医療を提供し、不安なく療養生活を送れるよう支援してまいりますので、よろしくお願い致します。

健康へのみちしるべ

— 第28回 —

みんなで予防！インフルエンザ

感染管理認定看護師 上田 京子



今年は、例年よりも早くインフルエンザの流行期を迎えました。

ここで、インフルエンザに関する豆知識をご紹介しますので、予防対策にお役立ていただけると幸いです。

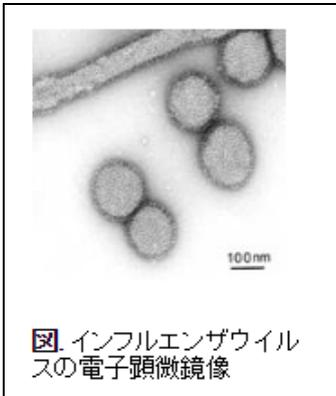


図. インフルエンザウイルスの電子顕微鏡像

【インフルエンザとは】

インフルエンザウイルス（図）を原因菌とする気道感染症。

インフルエンザウイルスにはA, B, Cの3つの型があり、流行的な広がりをするのはA型とB型。日本では例年12月～3月が流行シーズン。

感染者の飛沫（くしゃみや咳などのしぶき）を、他の人が吸い込むことにより感染する。咳やくしゃみの飛沫は2メートルほど飛散するといわれている。

また、感染者が咳やくしゃみをしたときに押えたその手で、ドアノブやスイッチなどに触れ、他の人がその部位を触り、その手を介して口や鼻の粘膜から感染する。

【症状】

感染すると1～2日間（平均）の潜伏期のあと、発熱（38度以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が現れる。普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳の症状もある。

子供や高齢者、免疫機能が低下している人では重症になることがあるため注意が必要。

症状がある場合は、速やかに受診をしましょう。

【検査】

インフルエンザ迅速検査キットにより短時間で結果がわかる。しかし、結果がすべてではなく、臨床症状から判断される場合もある。

検査では発症からすぐだと検出しないこともあり、半日から1日後に陽性化する場合がある。

【予防】

○流行前のワクチン接種（効果は接種して2週間後から4、5か月間ほど）

○咳エチケット（咳や鼻汁のある人はマスクをする）

○手洗い（手を介して、鼻や口の粘膜から入り込むため、こまめに手洗いをする）

・不特定多数の人の手が、頻繁に触れる環境表面に触った後は、こまめに手洗いをする。

・目に見える汚れがなければ、アルコール製剤の手指消毒は有効。



- ・環境の清掃（人が集まる場所、手が触れる場所）も大切。
- 十分な休養とバランスのとれた食事（免疫力を高める）
- 人込みや繁華街への外出を控える。（適切なマスクの着用をする）

【咳エチケットとは】

- 咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用する。
マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れる。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いする。

※咳エチケット用のマスクは、薬局やコンビニエンスストア等で市販されている不織布（ふしょくふ）製マスクの使用が推奨される。

※マスクの装着は説明書をよく読んで、正しく着用する。

※咳エチケットを心掛けることは、周囲にウイルスをまき散らさない効果があるだけでなく、周りの人を不快にさせないためのマナーにもなる。

【家族がインフルエンザになったら？】

- ・可能であれば生活する部屋を分ける（特に会話や食事時に注意）
- ・可能な限り看護は決められた人が行う。
- ・感染者と看護する人も接触するときは不織布マスクを着用。
- ・鼻をかんだティッシュペーパー等はビニール袋で密閉して廃棄する。
- ・食器や洗濯は通常でよい。
- ・抗インフルエンザ薬が処方されている場合は忘れず最後まで飲みきる。
- ・仕事等で外に出る場合、マスク着用と手洗いの徹底をする。



厚生労働省は、他の人への感染を防ぐため、「咳エチケット」をキーワードとした普及啓発活動を行い、マスクの着用や人混みにおいて咳をする際の注意点について呼びかけています。

当院においても、「いつでも・どこでも『咳エチケット』」を推奨しております。ご理解したうえで、「かからない」「うつさない」の姿勢に、ご協力お願い致します。

医師の頭と患者の頭



寒くなりました。巷ではインフルエンザも流行ってきました。

自分の体調管理はできていらっしゃいますか？

今日は、医師と患者の会話の一こまを考えてみましょう。

あなたは、あなた自身あるいは家族などが病気になった時、医師の説明に対して疑問を持ったり、わからないなあと感じたりしたことはありませんか。

そもそも医師の考えていることと、患者の頭は仕組みが違います。医師は医学の勉強をしてきた頭で物事を考えます。一般市民はそうではありませんね。

では、どうすればいいのでしょうか？

医師から病気について説明を受けるときは

- ①病名、病状をなど（今後の予測も含めて）
- ②治療に必要な検査の目的や内容
- ③治療の危険性や予想される副作用
- ④治療法や処置の成功の確率
- ⑤代替の方法の有無
- ⑥治療を拒否した場合の転帰

など、自分が理解し納得できるまで尋ねましょう。

尋ねることは患者さんの権利でもあり責務でもあるのです。後から「そんなことは聞いていない」はもう遅いのです。自分のために尋ねる勇気を持ちましょう。



○当院では、患者さんやそのご家族が医療を受け続ける中で抱く、生活や病状への不安などの様々なご相談に対応するため、「患者相談窓口」を設置しております。

○また、「患者相談窓口」には専任の相談員を配置して、患者さんやそのご家族と病院や医療従事者との対話促進の支援や問題解決に向けての対応を行っております。

○なお、相談することによって、患者さんが不利益を受けることはありません。また、相談内容や個人情報はい問題解決のため以外に、承諾なく他に提供することはありません。

お受けする相談内容

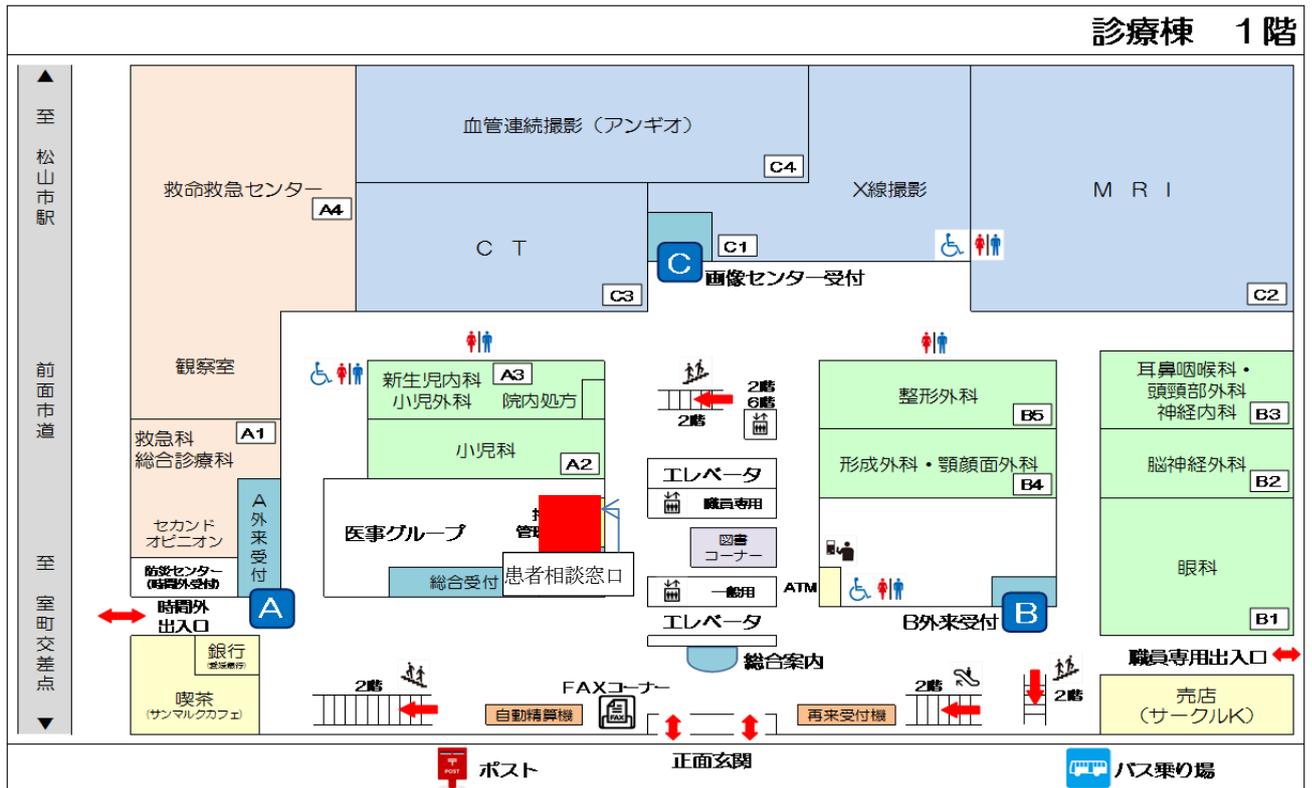
- 受診科に関する相談 どの診療科を受診すればいいの？
- 医療安全に係る相談 医療の安全確保について聞きたい？
- 治療に関する相談 治療の内容に疑問があるのですが？
- 職員に関する相談 職員の対応が気になるのですが？
- 医療費に関する相談 医療費、経済的な心配があるのですが？
- セカンドオピニオンについて セカンドオピニオン外来について教えてほしい？

など ご心配なこと、お困りのことがございましたら、お気軽にお立ち寄りください。

・ご相談は

窓口設置場所	診療棟1階（次ページの地図を参照ください）
受付時間	8：30～17：00（土日祝日、年末年始を除く）
電話番号	089-947-1111（代表）
担当者	患者相談専任看護師1名 他

患者相談窓口の場所



四国4県の基幹災害拠点病院が応援協定を締結しました



調印式に臨む（左から）

徳島県立中央病院 永井雅巳 院長
愛媛県立中央病院 西村誠明 院長

香川県立中央病院 太田吉夫 院長
高知医療センター 吉川清志 病院長

このたび、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備えて、四国4県の基幹災害拠点病院である徳島・香川・愛媛の各県立中央病院と高知医療センターが、発災直後から迅速に相互支援を行うため、応援協定を締結いたしました。

内容は、災害発生直後の急性期段階から中長期段階に至るまでの間、

- ・医療機器、医薬品類、食料その他応急物資の支援
- ・医師、看護師等医療関係従事者の派遣
- ・その他特に要請があった事項

を相互に応援するものであり、万が一に備えた広域支援体制を整えていくこととしています。

病病連携・病診連携

連携医療機関のご紹介～第4回～

※当院は、平成22年10月29日に『地域医療支援病院』の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって互いに連携を図っている医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

IV 医療法人同仁会 おおぞら病院



- 所在地：松山市六軒家町4番20号
- TEL:089-989-6620 ○FAX:089-989-6619
- 診療科目：内科(一般・糖尿病・内視鏡・呼吸器・神経・肝臓) 乳腺外科・整形外科・リハビリテーション科
- 病床数：108床
(回復期リハビリテーション病棟60床・一般病棟28床・地域包括ケア病床20床)
- 外来診療時間 平日：午前9:00～13:00
午後14:00～18:00
土曜：午前9:00～12:00

(休診日：土曜日午後・日曜日・祝日・年末年始・8月15日・10月7日)

○病院の基本理念：『私たちは、地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院を目指します』

○病院の概要：

- ・1970年松山市三番町で開設した吉田病院が、2015年2月おおぞら病院と改名し、松山市六軒家町に新築移転
- ・地域密着型の病院として、「健診による疾病予防」「専門に特化した外来」「リハビリテーションによる在宅復帰支援」に注力している
- ・基本理念の実現に向け、「患者さん中心の心の通った医療」「各スタッフが職域での責任感を持った医療」「質の高いチーム医療」を職員全員で行っている

V 医療法人千寿会 道後温泉病院



- 所在地：松山市道後姫塚乙21番21号
- TEL:089-933-5131 ○FAX:089-933-5137
- 診療科目：リウマチ科・整形外科・内科・リハビリテーション科
- 病床数：234床(障害者施設等一般病棟160床・回復期リハビリテーション病棟34床・地域包括ケア病棟40床)
- 外来診療時間：午前9:00～午後13:00
(内科は原則予約制)
(休診日：日祝日・年末年始)
- 病院の基本理念：『関節愛護』『和顔愛語』
- 病院の概要：

- ・昭和57年4月開院し、翌年リウマチセンターを開設、リハビリテーション機能を地域に活かすべく、平成23年5月回復期リハビリテーション病棟、平成26年9月地域包括ケア病棟を立ち上げる
- ・内科・整形外科・リハビリテーションなどの各職種が、入院時より同時並行的に治療に参画し、チーム医療を行っている
- ・リハビリテーション・リウマチ診療に携わるスタッフ教育に力を入れ、心豊かかつ高い技術を有する、プロフェッショナルな医療人の育成を図っている
- ・365日のリハビリテーションを提供している
- ・平成29年グランドオープン予定で新病院を建設中(写真は完成予想図)